

## 藤井聡太と文殊菩薩

文殊菩薩は智慧を司る菩薩様です。

知恵と智慧は同じ「ちえ」ですが、仏教では全く違うものです。

知恵は学習し身に着けた物事の筋道を立て計画し正しく処理していく能力のことです。

智慧は迷いを離れ物事の真理を正しく観る力のことです。

「知識を増やすと知恵は身につくが智慧は身につかない」と東光寺副住職の横山友宏氏は説いておられます。

知識は知る事によって得る事が出来ますが、智慧は体験・経験によって得るものです。

有名な渡辺明棋聖さんとの棋聖戦第2局での58手目の将棋AIが出した「8二金」は知恵の力で、藤井聡太さんの「3一銀」は智慧の力ではないでしょうか。

藤井聡太七段（当時17歳）は最強将棋ソフトが6億手以上読んでようやく最善と判断する異次元の手を23分で指しました。

これは神の一手でなく、智慧の一手ではないでしょうか。

ディープラーニング系将棋AI開発者の山口祐氏が、NHKクローズアップ現代で「藤井さんは新しいことに興味をもってディープラーニング系将棋AIを導入されて、それを自分のものする力が非常に強い。

将棋の盤面、その真理を探究するといったところにファークスが当たりがちですが、将棋の真理に到達するまでにはどういった道のりがいいのか、常に考えている。

開拓者だなと思います。

ディープラーニング系将棋AIを導入されたり、さまざまなことを取り入れて、これまでの人間のレベルとは違ったレベルに到達しつつあると感じています」と言っておられます。

お二人のお話を聞くと、藤井聡太さんは智慧を司る文殊菩薩の境地に向かう修験者の様に思われます。